

# タブレット端末による出口調査の試行

—御前崎市長選から—

大栗正彦

(中日新聞社)

## 1. はじめに

中日新聞社が行ってきた出口調査は紙の調査票を用意して、調査員が投票を終えた有権者に記入してもらい、その後まとめて携帯電話で入力、送信という方法をとってきた。近年のタブレット型の通信機器の発達に注目して2012年4月15日投票の静岡県御前崎市長選で、福井コンピュータが開発した直接タブレット端末に入力する方法を日本で初めて使用した。ここではタブレット端末を使った出口調査の運用を示し、選挙結果との誤差や紙ベースで行ってきた出口調査の精度の差を検証する。

## 2. 調査方法

御前崎市長選は4月8日告示、15日投開票。立候補者は現職石原茂雄、新人水野克尚、同村松晴久の3氏。停止中の中部電力浜岡原発の再稼働が争点になった。有権者数は27,460。投票所は期日前が2カ所、投票日が13カ所。過去に御前崎市で行われた各種選挙では期日前投票の割合が異常に高く35%前後になっていたため、投票日直前の金曜と土曜日に期日前調査を行い、投票日は全13投票所で出口調査を行った(表1)。

期日前調査は全てタブレット端末を使用。投票日調査は比較するためタブレット端末とスマートフォン、さらに紙の調査も行った。サンプル数は期日前調査で400。投票日調査は720

表1 御前崎市長選挙出口調査

期日前	サンプル数	340目標	
	実施日	金・土	
	地点数	2カ所	
	条件	タブレット端末	
投票日	サンプル数	720目標	
	地点数	13カ所	
	条件	タブレット端末	7カ所
		スマホ	2カ所
紙		4カ所	

サンプルとして投票所ごとの有権者数で配分した。従来と同じ紙の調査票を使ったのは4カ所で、同じ調査員が午前と午後で紙とタブレットになったり、同規模の隣接した投票所で紙とタブレットになったりするようにした。タブレットの画面は1問答えると次の画面になり、全て終了すると確認画面になりOKしたら送信。

調査員は30代から50代の女性で、出口調査経験者もいた。サンプル獲得の基本は男女交互。質問数は属性を含めて8問。挙名のないサンプルは無効とした。また声かけをして拒否された場合は調査拒否者としてカウントした。

## 3. 結果

選挙の投票率は76.6%だったが、期日前投票が投票総数の37%を占め、日曜日に投票した人は3人に2人しかいない特異な選挙だった。結果は表2の通り。

表2 御前崎市長選 選挙結果と出口調査

	選挙得票率	期日前出口	投票日出口
石原	57.9%	55.9%	55.4%
水野	33.0%	34.3%	35.2%
村松	9.1%	9.8%	9.4%

実際の選挙得票率と出口調査支持率はほぼ一致しており、数字上では出口調査はうまくいったといえる。紙の調査との差があったかみってみる。

「誰に投票したか」で見ると、紙では石原と水野がほぼ互角で、タブレット端末（スマホ含む）では石原が大きくリードしている（表3）。ただこれは媒体の要因ではなく投票区の影響によるものと推測できる。全13投票所の勝敗は石原の10勝3敗。紙で調査を行った投票区に水野の地元が含まれていたため、互角の支持になった。タブレット調査でも水野は地元ではリードしている。地元以外では隣接した紙とタブレット端末の調査地点で傾向に差は認められない。

表3 媒体による出口支持率の差

	石原	水野	村松
紙	45.5%	45.0%	9.4%
タブレット	60.0%	30.0%	9.9%
計	55.9%	34.3%	9.8%

表4 媒体による拒否率の差

	拒否数	協力数	拒否率
紙	107	202	34.6%
タブレット	230	503	31.4%
計	337	705	32.3%

次に紙とタブレットで調査拒否者に差があるかを見る。もしタブレットの方に拒否者が多いとしたらタブレット端末を出口調査に投入するのは時期尚早ということになる。拒否率は声かけをして拒否された人数と調査に協力してもらえた人数の合計に占める拒否者の割合。表4の通り紙もタブレットも差はなかった。拒否者はタブレットだからというより、「調査が嫌だ」という理由が多い。拒否率32.3%という数字はこれまでの中日新聞の出口調査と同じ割合である。

ただ調査員から「高齢の女性はタブレット端末を見ると腰が引ける人もいた」という報告も上がってきている。



スマホ、タブレット端末（中・大）

#### 4. メリット

最大の利点はスピード性。回答者が入力を終了したら5分程度でデータが送信される。今回は8問の回答に早い人で1~2分程度で終了していた。紙の場合は調査員の入力・送信が必要だったが、この手間がなくなった。このため時間あたりのサンプル数を多く取ることが可能になる。また調査員に回答を見られないという安心感も回答者に与えられる。

今回は万一に備えてタブレット調査にも紙を準備したが、将来的には紙が不要になる。

#### 5. デメリット

大きく2つ。まず画面が暗いことがあげられる。屋根がある場所で調査ができればいいが、青空の場合には文字が読み取り難くなる。今回は調査員が読み上げる場面もあった。さらに高齢者が違和感なく接することができるように文字サイズを大きくしたりする工夫がある。

その他、端末の電池消費も気になる。

#### 6. まとめ

御前崎市長選でのタブレット端末使用の実験は紙ベースと調査結果は遜色なかった。改良を加えれば十分国政選挙にも投入できる。